

## 四日市版コミュニティスクール報告書（令和5年度総括）

四日市市立泊山小学校

校長 渡瀬 幹久

## 1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

平成29年4月に本校は、四日市市教育委員会から四日市版コミュニティスクールの指定を受け、「泊山小学校運営協議会」（以下運営協議会）を発足させました。

学校づくりビジョンに掲げた学校教育目標「未来を切りひらき、幸せに生きる」子どもの育成のため、学校をご支援いただいている保護者や地域の方々の活動を継続・発展させ、学校教育の一層の充実を図ります。



## 2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

### (1) 教育活動の実践事例

運営協議会は、地域団体代表、自治会代表、主任民生児童委員、PTA代表、校区内の児童養護施設や母子自立支援施設の代表等7名で構成しています。ここに、本校職員が加わり、年間5回の会議を実施し、保護者や地域住民の学校教育活動への参画のあり方を協議するとともに、保護者や地域住民の具体的な取組内容や時期等について調整を図っています。

定例の会議では、写真のように、必ず全学級の授業参観を行い、子どもの実態に即した協議を行うようにしています。協議の中で本校の強みや課題について話し合い、充実した教育活動の方向付けを行っています。本年度はアフターコロナに当たり、教育活動がどのように変化しているのか、どれぐらいの活動が可能なのかを中心に、授業の様子や校内の環境面の整備、地域協力者との連携についてもご意見をいただきました。協議会の話し合いを受け、効果的な少人数指導について検討したり、学級園や畑で花や野菜を育てる環境を整えたり、地域協力者の皆さんと1年生との交流会を行ったりすることができました。

また、南部丘陵公園を校区に擁する本校では、恵まれた環境を生かす取り組みとして、運営協議会委員長をはじめ地域の「日永梅林を守る会」



の方に梅林のお話や梅のちぎる時の注意事項を教えてくださいながら、「梅ちぎり」体験を行うことができました。本年度は「梅シロップづくり」も再開し、自然の恵みをおいしくいただく体験もできました。

さらに、運営委員がメンバーである地域の自主防災隊の方を講師に招き、講演と防災体験（水消火器と応急担架体験）を行いました。

講演では実際に校区において被害に遭った49水害（昭和49年に天白川等が氾濫した洪水災害）の様相を語っていただいたり、体験学習ではけが人を想定し、消毒後、竹と毛布

で担架を作って実際に運んだりして、防災・減災に対する意識を高めることができました。



## (2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

(1)に記述した通り、コロナ後の教育活動について運営委員をはじめ地域の方々にお知恵を借りながら、地域教育資源を生かした特色ある教育を展開できました。

学校の現状については、参観や各種報告を元に理解いただき、適切な助言をいただくことができました。

授業においては、児童が落ち着いて学習している様子や教職員が熱心に授業をしている姿を評価いただきました。特に、少人数習熟度別学習では前年度までの学習内容に積み残しのある児童をどのように指導して基礎学力を身につけさせるのか、工夫ある授業の様子や、少人数の中で生き生きと学習に取り組んでいる子どもたちの様子に感心されていました。

体育館に全校児童の図工・書写作品を展示する「泊展」を2年ぶりに見ていただきました。子どもらしい一面や努力の感じられる作品を一つずつ丁寧にみていただき、「図工作品で各児童の個性や感性がうまく引き出されている」という声をいただきました。引き続き、子どもたちが意欲的に表現活動に取り組めるよう、一人ひとりの思いを大事にした活動を続けていきたいと思えます。

朝の読書においては、読み聞かせのボランティアとして約10人の登録をいただいております。保護者や地域の方に、しっとりとした読書の時間を作っていただきました。ようやく近くに寄って読み聞かせることができるようになり、本の世界の中に引き込まれている様子が感じられました。

このようにコロナ禍で制限されていた活動が少しずつ元に戻ってきました。子どもたち同士の距離も身体的にだけでなく心理的にも少し縮まったように感じます。しかし、マスクの取り外しができない児童、大きな声で話すことのできない児童の数も少なくはなく、子どもたちが安心・安全に生活できる居場所を見つけるためには時間がかかるかもしれません。だからこそ、地域の方々へ温かい目で見守っていただき、声をかけていただくこと、お互いに顔を知る

ことなどが大事だと思います。

総合的な成果を示す指標となる学校評価・児童アンケート「学校は楽しい」の肯定的な回答は93.6%となっています。高い数値だと考えながらも、本校では「楽しくない」と答えた0.6%（2人）の児童にも目を向けています。めざす学校像「笑顔と優しさのあふれる学校」にある通り、一人でも悲しい思いをしている人がいたらそっと寄り添うことのできるなかまづくりをするために必要な視点だと思います。

同じく児童アンケート「学力向上」においては「宿題は忘れずに、きちんとしている」の肯定的な回答が93.0%となり、高い数字を維持しています。家庭での声かけ等の協力があってのことかと考えます。家庭と連携しながら、家庭学習も充実させることで、学習効果を高めていきたいと思ひます。

### 3 今後に向けて

コミュニティスクール運営協議会では、毎回1時間ほど校内の様子を参観し、感想をいただいています。コミュニティスクール運営委員からは、今年度も昨年度に引き続き、児童の健康という面でアフターコロナの乗り切り方について関心をお持ちになられ、ご意見をいただくことが多くありました。

概ね、教育活動が元通りになるよう教職員も児童も努力している点を高く評価していただき、ご理解・ご協力いただいています。また、今年度試みた地域協力者の皆さまと1年生との交流活動についても高く評価していただき、それぞれの学年に応じた交流を今後増やしていけるとよいと言っただきました。

来年度も子どもたちの健康面・安全面を最優先にして、保護者・地域の方々と協働し、充実した教育活動を展開できるよう努力していきたいと思ひます。

別紙B

令和5年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立泊山小学校

委員長 小池 儀作

校長 渡瀬 幹久

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回 運営協議会	校内参観 今年度の学校運営方針について
6	第2回 運営協議会	校内参観 読書活動の推進について
7		
8		
9		運動会参観
10	第3回 運営協議会	校内参観 学校指定物品の見直しについて 全国学力学習状況調査の結果について
11		
12	第4回 運営協議会	校内参観 防災教室について
1	第5回 運営協議会	泊展参観 年間活動総括及び学校関係者評価
2		
3		